
第十八部隊

椿山 昇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第十八部隊

【Nコード】

N0293D

【作者名】

椿山 昇

【あらすじ】

日本の敗戦が見え隠れする中、日本は北海道を放棄することを決定。そんな中、札幌の最終防衛線で戦う部隊があった。

日本の敗戦が見え隠れする中、日本は北海道を放棄することを決定した。そんな中、俺たち十八部隊は札幌の最終防衛線を守っていた。

「隊長、隊長の守りたい物ってなんですか？」

隊長の脇腹から吹き出る血を抑えながら尋ねてみた。

同じ部隊の竹中は、「なにを、こんな時に」と言っていたが、隊長の意識が薄れていく中、胸ポケットの写真を指差した。家族の写真かと思い取り出した

しかし、そこに写っていたものは『第十八訓練生』俺達の部隊だった。

隊長は、おれたち訓練生の教官でもある。

訓練では、「癪癪玉」との異名を持つほど怒ると恐ろしい教官だったが、

責任感が強く、いい教官でもあった。

そんな、隊長の歌い文句は

「自分のために、死ぬな。仲間のために死ぬ」

「最後の一人になっても、死んだ仲間を捨てて逃げるな」

だが、必ず最後には

「自分の命は大切にしろ、少しでも長く生きろ」

まったく、無茶を言う人だ意味がわからん。

その時は、そう思っていた。

しかし、隊長は俺達をかばって敵に撃たれた。

仲間のために撃たれた。

十八訓練生の写真を竹中が見ながら

「隊長、懐かしい写真をお持ちですね。自分もその写真持ってますよ」

卒業の時、隊長が入学当時に撮った写真を

訓練生全員に配った時のことを竹中は隊長に必死になって話しかけていた。

隊長もよく意識がまだもつものだと感心してしまう。
だが、だんだん目が虚ろになってきた。

そろそろか、竹中と俺もそう思い始めたその時、

隊長が俺の腕を必死につかみ俺の耳元でなにかをつぶやいた。

「・・・わかりました。隊長」

それを聞いた後か聞かなかったかわからないが、

隊長の手は地面におちた。

最後に俺の腕をつかんだ時の握力はとても強かった。

無線では、退避命令が流れていた。

「退避だ！もう逃げる場所なんてどこにもないくせに」

竹中の言うとおりだった

札幌には、いや、北海道には、もう俺たちの部隊しか残っていないかった。

ほかの部隊が退避していく中、

新千歳空港を占拠させないために俺たちの部隊は、ここに残された。
後悔はしていない、自ら志願したのだから、

それに、隊長の最後の言葉もある。

部隊の仲間は、「中隊長どうする？逃げるか、逃げる場所もないけど」など

いいながら俺の命令を待っていた。

「よし、こうなったらガラじゃないが一発喝を入れてやろうか。

ちょうど敵も攻撃が緩んできたことだし。」

「いいか、お前ら隊長が訓練生の時に口がすっぱくなるまで言っていたことを思い出せ。

自分のためには死ぬな、仲間のために死ぬだが、すぐには死ぬな命は大切にしろ、少しでも長く生きろ、

俺が思うに少しでも 俺たちが長く生きればその分、日本は長く生き残る。

だから、死ぬなどとは言わない。

だが、生きる！少しでも長く。

・ ・ 最後に、死んだ仲間を捨てていくな、と隊長はいいましたが、俺はそうは思わない、仲間の屍を乗り越えていけ。以上！」

「いくぞ、総員突撃」

「なあ、中隊長、聞きたいことがあるんだが」

「なんだよ、竹中」

「お前、隊長になんて言われたんだ」

俺は、にやりと笑いこういった

「秘密だ」

そう言って俺はAK-47を握りしめ戦場へ飛び出した。

（後書き）

最後まで読んでいただいております。ありがとうございます。

「第十八部隊」が、自分の一作目になるので

最後まで読んでいただけるかドキドキしています。

これからも色々と書いていきたいので

よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0293d/>

第十八部隊

2010年11月2日20時30分発行